

自己評価表

学校名 愛媛県立大洲高等学校

学校番号 32

教育方針	<p>国家社会の有為な形成者としての資質を養うために知性を高め、心身ともに健康で豊かな人間性と創造力を備えた人間を育成する。 生徒の興味・関心・能力に応じた進路実現を目指し、社会の変化に主体的に対応し、社会貢献できる人材を育成する。</p>	重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 常に向上心を持たせ、自ら学ぶ態度を育成する。 2 優しい心と誠実な人生観を持った生徒を育てる。 3 知性を磨き、心身ともに健康で社会貢献のできる生徒を育成する。 4 創意をいかし、国際感覚の豊かな生徒を育てる。 5 読書や芸術に親しませ、豊かな感性を培う。 6 地域とともに歩む、活力のある魅力を持った学校をつくる。
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 習 指 導	授業の充実	内容の精選に努め、生徒の主体性を生かした分かりやすい授業を実践する。	A	生徒が主体的に取り組める授業をそれぞれの教科で工夫し、分かりやすい授業が実践できた。	協働学習への理解を深め、思考力や判断力、表現力を高める指導を工夫する。
	教科指導の研究	研究授業に積極的に参加し、教科指導の専門的技量を高め合うとともに、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の研究と実践に努める。	A	アクティブ・ラーニング推進研究指定校を利用し、グループワークやICT機器を積極的に取り入れた授業を実践することができた。	1年間のアクティブ・ラーニングに関する技術を更にスキルアップし、生徒の学力向上に寄与する。
	生徒の皆勤率向上	1か年皆勤率70%以上、3か年皆勤率50%以上を目指す。	D	1か年皆勤率、3か年皆勤率共に目標に届かなかった。	ホームルーム活動や総合的な学習の時間と連動し、キャリア教育の充実を図る。
	ホームルーム活動・総合的な学習の時間(良知)の充実	ホームルーム活動・総合的な学習の時間(良知)の内容を精選し、生徒が協働して主体的に取り組めるよう創意工夫する。	B	年間計画に基づき適切に実施できた。各学年で工夫した新しい取組も見られた。	実施内容の精選に努め、更に生徒に還元できるような新しい取組を工夫する。

*評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなり成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	進路指導の充実	就職・進学共に第一志望合格率100%を目指す。	B	商業科の就職については、第1希望で合格した。普通科については入試倍率が高いので合格率100%とはなっていない。	普通科の学力格差が大きくなっており、個々に応じた授業、課題等の工夫をしていきたい。
		国公立大学合格者を志望生徒数の60%以上、難関国立大学合格者数10名以上を目指す。 就職内定率100%を早期に目指す。	B	現在、国公立推薦が20名、一般前期が40名でほぼ例年通りの結果となっている。難関大学は東京大学、名古屋大学、大阪大学の3名となっている。就職内定率100パーセントは達成できている。	難関大学を目指す生徒に対する個別指導を、1年次、2年次より学年単位で取り組む。大学の入試制度や学部、学科の特徴についてHRの時間や総合学習の時間を利用してさらに働きかけたい。
		家庭学習時間1・2年次3時間以上、3年次4時間以上を目標に、計画的に学習に取り組ませる。	C	3年生は、平均4時間以上の学習時間を確保している。1年生、2年生の平均学習時間は3時間を越えていない。	土曜日、日曜日の学習時間が少ない生徒の割合が増えている。1年次から、学習習慣を身に付けさせるための課題等の工夫をしたい。
生徒指導	生徒指導の充実	基本的生活習慣の確立を図る。 5分前登校遅刻0を目指す。	B	生徒の学校での生活状況はおおむね落ち着いている。 5分前登校はおおむね良好である。	家庭訪問、保護者懇談等を生かし、生徒理解に努めることを大切にしたい。
	規範意識の向上	集団の中の一員としての在り方、生き方を教える。 身だしなみ指導などマナーアップの向上を図る。	B	あいさつ、身だしなみなどはおおむね良好である。 身だしなみ指導での継続指導の生徒がいる。 校内でのスマホの使用違反の生徒がいる。	生徒、保護者、教職員の共通理解をもとに様々な指導を行いたい。 細やかな指導を継続していきたい。
	交通安全指導の充実	安全意識の高揚に努め、交通事故0を目指す。 自転車通学生のヘルメット着用100%を目指す。	B	自転車の接触事故が2件発生した。また、交通マナー等に対する苦情連絡もあった。 登下校時はヘルメット着用がおおむね守れている。	生徒は知らないものとして1から何度も交通ルール等について啓発指導を繰り返していきたい。

*評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなり成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	不適応生徒の早期発見・悩み相談	欠席状況などから、不適応生徒の早期発見に努め、生徒の悩み相談に適切に対応する組織作りを進め、早期解決に努める。	B	ホームルーム担任を中心に、学年主任、養護教諭、スクールライフアドバイザーが協力した。本人、保護者の考えに応じて対応した。	生徒の悩みに応じた適切な教育相談が行えるように研修を行う。さらに外部機関を活用した支援体制を整える。
特別活動	部活動の充実	部活動加入率95%以上を目指す。全運動部の県総体出場を目指す。	B	加入率は94.5%(5月)である。どの部も計画的に熱心な取組ができていく。(体罰等の発生はない)	文武両道の実践を行うための対策を検討したい。退部する生徒を減らしていきたい。
	学校行事の充実	生徒、教職員が協力して取り組み活力のある行事にする。藤樹祭の満足度100%を目指す。	A	地域の方を元気づける行事として、藤樹祭(仮装行列、体育祭、文化祭)を実施した。	細かい改善点も多いので検討し、さらに良い行事にしたい。
安全管理	緊急時の対応	緊急時の対応及び避難方法を全員に周知徹底する。防災、安全意識の向上を図る。	A	原子力防災訓練、シェイクアウトえひめなど年3回の防災避難訓練を実施することができた。	各機関との連携をさらに深めるとともに、緊急時に素早く対応できる実践力を養いたい。
	安全点検	毎月の安全点検を継続して行う。	B	施設・設備の補修をその都度事務課と連絡を取りながら行った。清掃活動を通して、環境整備を進めた。	安全点検の意義を理解し、周知徹底を図るために、全職員に対して呼びかけを強化すると共に、自発的な取組を通して、安全意識の向上に努める。
保健管理	健康教育の充実	生徒の健康状態を把握し、事後措置を徹底する。生徒の健康に関する自己管理能力の向上を図る。	B	受診が必要な生徒については、個別指導によって事後措置を徹底することができた。保健だよりや生徒保健委員会活動を通して、健康についての意識の向上を図った。	個別の保健指導を丁寧に行い、迅速に事後措置が完了できるよう努める。生徒保健委員会活動をより充実させ、健康教育の啓発に努める。
組織運営	職員会議	職員会議の運営を計画的に適切に行う。	B	計画通りに実施できた。学校評価では87%を超える教職員が適切であると答えている。	会議を円滑に進めるため、議題を精選の精選に努める。

*評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなり成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
組織運営	校内組織の充実	教職員間の意思疎通を図り、連携・協力体制を確立する。	B	校務分掌の構成は学校評価では91%が適切と評価している。一部の教職員の負担が増えないよう協力して取り組めた。	校務分掌が効果的に機能するためにも、各課・学年での話し合いの機会を増やし、協力体制を確立させる。
図書	朝読書の充実	学校全体で、朝読書に積極的に取り組む。	B	学校(クラス)全体としては、ほぼ目標は達成できた。	生徒一人一人に朝読書の意義を理解させ、より充実した読書活動にする。
	図書館の活用	各教科との連携を図りながら、年間貸し出し冊数一人当たり6冊以上を目指す。	C	各教科や各学年と連携を図り図書館利用を促進することができたが、貸出冊数の目標達成できなかった。	本年度1、2学年で取り組んだ、「読書(新書)レポート」を更に発展させ、読書を通して、考える力を育てる。
研修	校内研修	相互の授業参観や校内授業研究を年間計画に組み込み、教職員が積極的に参加する。教科会を充実させる。	B	各課と連携して、様々な研修会を実施することができた。アクティブ・ラーニング推進校として、各教科とも科会を定期的実施し、研究を積み重ねることができた。	I C T授業の円滑な実施に向けて、各教科や各学年の連携を深め、授業研究の研修の機会を提供する。
	自己研修	教科に関する指導力、授業力の向上を図る。	B	アクティブ・ラーニングの研究・実践を通して、授業力の向上を図ることができた。	各教科毎に研修計画を立て、積極的に授業研究を行うようにする。
	公開授業	参観者が増えるようにP R活動などを工夫する。	C	文書やホームページ等での呼びかけにより、一応の成果があった。	各課と連携を図り、実施期間や実施内容を工夫し、参観者の増加につなげる。
教育目標	目標設定	本校の実情や生徒の実態に合った教育目標を設定する。	B	学校評価アンケートにおいて、適切であるという評価は、教職員(96%)に比べて保護者(81%)の評価が低い。	今後も生徒の能力・実態に合った、教育目標を設定していく。

*評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなり成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
教育目標	生徒と保護者への周知	生徒や保護者に対して教育目標の周知を図る。	B	学校評価保護者アンケートでは74%が適切であると、昨年度とほぼ同じ評価であった。	P T A月報・P T A総会・ホームページ等を活用して周知徹底を図りたい。
情報提供	情報提供	ホームページや毎月配付するP T A月報の内容を充実し、学校の情報を積極的に公表する。	A	ホームページでの情報公開については、更新回数も多く、内容も充実しており、大変好評である。	更に魅力あるホームページになるよう工夫して、情報提供に努めたい。
	保護者との連携	保護者の協力を得て、生徒の学校生活がさらに充実したものになるよう、P T Aとの連携を深める。	B	連携が十分取れていると感じる保護者の割合は63%と昨年度とほぼ同じ低い数値であった。	三者懇談や家庭訪問等の機会を確保し、十分な理解を得られるようにする。必要な場合は適宜家庭訪問や面談を実施していきたい。
人権・同和教育	いじめ対策	いじめの早期発見を心掛け、いじめや差別のない明るい学校づくりを目指す。	B	人権集会において、「いじめS T O P愛顔の子どもフォーラム」で本校演劇部の人権劇を鑑賞しいじめ防止意識を高めることができた。	いじめ防止の意識について、さらに啓発機会を多くして、保護者にも理解と協力をお願いしていきたい。
	人権・同和教育の充実	生徒人権委員会の活動を活発化し、保護者・地域との連携を強化する。	A	人権委員会の聞き取り調査や大洲喜多地区の各校の交流学習会を継続し地域との連携がはかれた。	人権・同和教育のホームルーム活動における、教材の深化と充実に努めたい。
教育環境	環境教育の推進	教育活動が活発になるような取組を企画し、完全な環境づくりに努める。	B	毎日の清掃活動や、生徒会による美化活動を通して、校内の環境づくりを進めた。併せて、P T A保健専門委員会による中庭整備を行った。	学校評価での生徒や保護者の意見を基に、改善を加えていく。建物自体の老朽化や劣化を点検、補修を重ねることで補う。
	職場環境の充実	広報活動を通して、健康への関心を喚起すると共に、仕事に充実感や満足感が持てるような環境づくりを進める。	B	健康相談室だよりを活用し、衛生委員会からの連絡を毎月行い、健康への意識向上に取り組んだ。	より仕事のはかどる職場環境を目指し、環境整備への協力を全職員に呼びかけるとともに、施設面での改善を図る。

*評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなり成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。